

観月の例会

昭和四十三年十月七日

於 神戸市加納町 北野クラブ

奇しくも今年の仲秋名月は皆既月
食と重なり五十五年ぶりの天体異
変と云う、くら闇の月見でもある
まいと一夜を繰り延ばして今宵十
六夜を鑑賞する事にした。会場は
加納町三丁目浄水場の真下の「北
野クラブ」と云う氣の利いた社交
場、御存知、昔オリビヤ事引濟

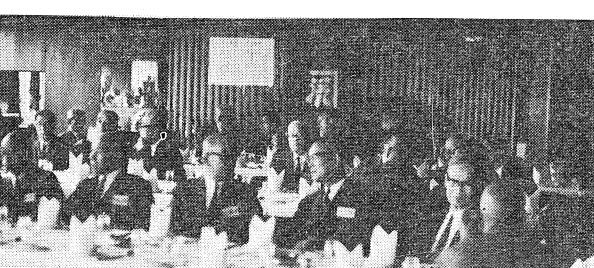
美寮のあつた場所とは目と鼻の
所、無論、オリビヤの面影は跡方
もないがこの辺り大半の会員に取
り出深い郷愁の地ではある

(五氏欠席)に花束を贈呈。富永、
政一氏の叮重なる伝言をつたえら
れる。新会員として初出席の荒尾

菊地、木村、三氏よりそれぞれ答
へたしかこのあたりとおぼしく人々
の胸を打つ。宜なる哉、定刻茲に
歩を運んで附近を一巡する会員の
姿が多數見かけられた。その胸中
を去来するものは半世紀前の華や
かな青春の日の哀歎であろう事は
間違いない。

本日、残念な事には、既に世評
に高い「日商岩井」が本月一日か
ら新発足してその披露会が名古屋
で開催されるのに高畠さん、永井
さんが行かれ、夕お顔の見えぬの
が画童点星を欠いた、尤より「日
商」の重要行事とあれば両大御所
の御不参も我々は喜んで甘受せね
ばならない。

(16)



△ 受 者 花 束 呈 贈 東 花

叙勲の恩命に浴して

木村 謙三

今年の十月七日辰巳会の秋季大
会の觀月会が神戸北野クラブで催
された際、先般の叙勲者の内同日
出席の菊地、富永両君と共々、見
事な花束を頂戴して御祝辞を賜り
謝の言葉もなく唯々御芳情に有難
く厚く御礼申上げます。

其の節も一寸申上げましたよう

い、数ヶ月会わぬ間にお互に年

をとる、皆様も何とかして御無理
をしないで健康を保たれる事を祈
ります。

皆様も段々と冬が近づきますの
で御用心、御長命を祈ります。

本日の盛会、仲秋の名月、受賞
者の万歳、皆様の御健康、荒尾さ
人の面白いお話、等を思い、御盛
会を祈り私の御挨拶に代えます。

△ 受 者 花 束 呈 贈 東 花

今年の十月七日辰巳会の秋季大
会の觀月会が神戸北野クラブで催
された際、先般の叙勲者の内同日
出席の菊地、富永両君と共々、見
事な花束を頂戴して御祝辞を賜り
謝の言葉もなく唯々御芳情に有難
く厚く御礼申上げます。

其の節も一寸申上げましたよう

い、数ヶ月会わぬ間にお互に年

をとる、皆様も何とかして御無理
をしないで健康を保たれる事を祈
ります。

皆様も段々と冬が近づきますの
で御用心、御長命を祈ります。

本日の盛会、仲秋の名月、受賞
者の万歳、皆様の御健康、荒尾さ
人の面白いお話、等を思い、御盛
会を祈り私の御挨拶に代えます。

志や希望とは凡そ違った方面に参

加納町の産業合理化審議会や輸出公

会の觀月会が神戸北野クラブで催
された際、先般の叙勲者の内同日
出席の菊地、富永両君と共々、見
事な花束を頂戴して御祝辞を賜り
謝の言葉もなく唯々御芳情に有難
く厚く御礼申上げます。

其の節も一寸申上げましたよう
い、数ヶ月会わぬ間にお互に年
をとる、皆様も何とかして御無理
をしないで健康を保たれる事を祈
ります。

皆様も段々と冬が近づきますの
で御用心、御長命を祈ります。

本日の盛会、仲秋の名月、受賞
者の万歳、皆様の御健康、荒尾さ
人の面白いお話、等を思い、御盛
会を祈り私の御挨拶に代えます。

△ 受 者 花 束 呈 贈 東 花

今年の十月七日辰巳会の秋季大
会の觀月会が神戸北野クラブで催
された際、先般の叙勲者の内同日
出席の菊地、富永両君と共々、見
事な花束を頂戴して御祝辞を賜り
謝の言葉もなく唯々御芳情に有難
く厚く御礼申上げます。

其の節も一寸申上げましたよう

い、数ヶ月会わぬ間にお互に年

をとる、皆様も何とかして御無理
をしないで健康を保たれる事を祈
ります。

皆様も段々と冬が近づきますの
で御用心、御長命を祈ります。

本日の盛会、仲秋の名月、受賞
者の万歳、皆様の御健康、荒尾さ
人の面白いお話、等を思い、御盛
会を祈り私の御挨拶に代えます。

志や希望とは凡そ違った方面に参

加納町の産業合理化審議会や輸出公

会の觀月会が神戸北野クラブで催
された際、先般の叙勲者の内同日
出席の菊地、富永両君と共々、見
事な花束を頂戴して御祝辞を賜り
謝の言葉もなく唯々御芳情に有難
く厚く御礼申上げます。

其の節も一寸申上げましたよう
い、数ヶ月会わぬ間にお互に年
をとる、皆様も何とかして御無理
をしないで健康を保たれる事を祈
ります。

皆様も段々と冬が近づきますの
で御用心、御長命を祈ります。

本日の盛会、仲秋の名月、受賞
者の万歳、皆様の御健康、荒尾さ
人の面白いお話、等を思い、御盛
会を祈り私の御挨拶に代えます。

△ 受 者 花 束 呈 贈 東 花

今年の十月七日辰巳会の秋季大
会の觀月会が神戸北野クラブで催
された際、先般の叙勲者の内同日
出席の菊地、富永両君と共々、見
事な花束を頂戴して御祝辞を賜り
謝の言葉もなく唯々御芳情に有難
く厚く御礼申上げます。

其の節も一寸申上げましたよう

い、数ヶ月会わぬ間にお互に年

をとる、皆様も何とかして御無理
をしないで健康を保たれる事を祈
ります。

皆様も段々と冬が近づきますの
で御用心、御長命を祈ります。

本日の盛会、仲秋の名月、受賞
者の万歳、皆様の御健康、荒尾さ
人の面白いお話、等を思い、御盛
会を祈り私の御挨拶に代えます。

志や希望とは凡そ違った方面に参

加納町の産業合理化審議会や輸出公

会の觀月会が神戸北野クラブで催
された際、先般の叙勲者の内同日
出席の菊地、富永両君と共々、見
事な花束を頂戴して御祝辞を賜り
謝の言葉もなく唯々御芳情に有難
く厚く御礼申上げます。

其の節も一寸申上げましたよう
い、数ヶ月会わぬ間にお互に年
をとる、皆様も何とかして御無理
をしないで健康を保たれる事を祈
ります。

皆様も段々と冬が近づきますの
で御用心、御長命を祈ります。

本日の盛会、仲秋の名月、受賞
者の万歳、皆様の御健康、荒尾さ
人の面白いお話、等を思い、御盛
会を祈り私の御挨拶に代えます。

△ 受 者 花 束 呈 贈 東 花

今年の十月七日辰巳会の秋季大
会の觀月会が神戸北野クラブで催
された際、先般の叙勲者の内同日
出席の菊地、富永両君と共々、見
事な花束を頂戴して御祝辞を賜り
謝の言葉もなく唯々御芳情に有難
く厚く御礼申上げます。

其の節も一寸申上げましたよう

い、数ヶ月会わぬ間にお互に年

をとる、皆様も何とかして御無理
をしないで健康を保たれる事を祈
ります。

皆様も段々と冬が近づきますの
で御用心、御長命を祈ります。

本日の盛会、仲秋の名月、受賞
者の万歳、皆様の御健康、荒尾さ
人の面白いお話、等を思い、御盛
会を祈り私の御挨拶に代えます。

志や希望とは凡そ違った方面に参

加納町の産業合理化審議会や輸出公

会の觀月会が神戸北野クラブで催
された際、先般の叙勲者の内同日
出席の菊地、富永両君と共々、見
事な花束を頂戴して御祝辞を賜り
謝の言葉もなく唯々御芳情に有難
く厚く御礼申上げます。

其の節も一寸申上げましたよう
い、数ヶ月会わぬ間にお互に年
をとる、皆様も何とかして御無理
をしないで健康を保たれる事を祈
ります。

皆様も段々と冬が近づきますの
で御用心、御長命を祈ります。

本日の盛会、仲秋の名月、受賞
者の万歳、皆様の御健康、荒尾さ
人の面白いお話、等を思い、御盛
会を祈り私の御挨拶に代えます。

△ 受 者 花 束 呈 贈 東 花

今年の十月七日辰巳会の秋季大
会の觀月会が神戸北野クラブで催
された際、先般の叙勲者の内同日
出席の菊地、富永両君と共々、見
事な花束を頂戴して御祝辞を賜り
謝の言葉もなく唯々御芳情に有難
く厚く御礼申上げます。

其の節も一寸申上げましたよう

い、数ヶ月会わぬ間にお互に年

をとる、皆様も何とかして御無理
をしないで健康を保たれる事を祈
ります。

皆様も段々と冬が近づきますの
で御用心、御長命を祈ります。

本日の盛会、仲秋の名月、受賞
者の万歳、皆様の御健康、荒尾さ
人の面白いお話、等を思い、御盛
会を祈り私の御挨拶に代えます。

志や希望とは凡そ違った方面に参

加納町の産業合理化審議会や輸出公

会の觀月会が神戸北野クラブで催
された際、先般の叙勲者の内同日
出席の菊地、富永両君と共々、見
事な花束を頂戴して御祝辞を賜り
謝の言葉もなく唯々御芳情に有難
く厚く御礼申上げます。

其の節も一寸申上げましたよう
い、数ヶ月会わぬ間にお互に年
をとる、皆様も何とかして御無理
をしないで健康を保たれる事を祈
ります。

皆様も段々と冬が近づきますの
で御用心、御長命を祈ります。

本日の盛会、仲秋の名月、受賞
者の万歳、皆様の御健康、荒尾さ
人の面白いお話、等を思い、御盛
会を祈り私の御挨拶に代えます。

△ 受 者 花 束 呈 贈 東 花

今年の十月七日辰巳会の秋季大
会の觀月会が神戸北野クラブで催
された際、先般の叙勲者の内同日
出席の菊地、富永両君と共々、見
事な花束を頂戴して御祝辞を賜り
謝の言葉もなく唯々御芳情に有難
く厚く御礼申上げます。

其の節も一寸申上げましたよう

い、数ヶ月会わぬ間にお互に年

をとる、皆様も何とかして御無理
をしないで健康を保たれる事を祈
ります。

皆様も段々と冬が近づきますの
で御用心、御長命を祈ります。

本日の盛会、仲秋の名月、受賞
者の万歳、皆様の御健康、荒尾さ
人の面白いお話、等を思い、御盛
会を祈り私の御挨拶に代えます。

志や希望とは凡そ違った方面に参

加納町の産業合理化審議会や輸出公

会の觀月会が神戸北野クラブで催
された際、先般の叙勲者の内同日
出席の菊地、富永両君と共々、見
事な花束を頂戴して御祝辞を賜り
謝の言葉もなく唯々御芳情に有難
く厚く御礼申上げます。

其の節も一寸申上げましたよう
い、数ヶ月会わぬ間にお互に年
をとる、皆様も何とかして御無理
をしないで健康を保たれる事を祈
ります。

皆様も段々と冬が近づきますの
で御用心、御長命を祈ります。

本日の盛会、仲秋の名月、受賞
者の万歳、皆様の御健康、荒尾さ
人の面白いお話、等を思い、御盛
会を祈り私の御挨拶に代えます。

△ 受 者 花 束 呈 贈 東 花

今年の十月七日辰巳会の秋季大
会の觀月会が神戸北野クラブで催
された際、先般の叙勲者の内同日
出席の菊地、富永両君と共々、見
事な花束を頂戴して御祝辞を賜り
謝の言葉もなく唯々御芳情に有難
く厚く御礼申上げます。

其の節も一寸申上げましたよう

い、数ヶ月会わぬ間にお互に年

をとる、皆様も何とかして御無理
をしないで健康を保たれる事を祈
ります。

皆様も段々と冬が近づきますの
で御用心、御長命を祈ります。

本日の盛会、仲秋の名月、受賞
者の万歳、皆様の御健康、荒尾さ
人の面白いお話、等を思い、御盛
会を祈り私の御挨拶に代えます。

志や希望とは凡そ違った方面に参

加納町の産業合理化審議会や輸出公

会の觀月会が神戸北野クラブで催
された際、先般の叙勲者の内同日
出席の菊地、富永両君と共々、見
事な花束を頂戴して御祝辞を賜り
謝の言葉もなく唯々御芳情に有難
く厚く御礼申上げます。

其の節も一寸申上げましたよう
い、数ヶ月会わぬ間にお互に年
をとる、皆様も何とかして御無理
をしないで健康を保たれる事を祈
ります。

皆様も段々と冬が近づきますの
で御用心、御長命を祈ります。

本日の盛会、仲秋の名月、受賞
者の万歳、皆様の御健康、荒尾さ
人の面白いお話、等を思い、御盛
会を祈り私の御挨拶に代えます。

△ 受 者 花 束 呈 贈 東 花

今年の十月七日辰巳会の秋季大
会の觀月会が神戸北野クラブで催
された際、先般の叙勲者の内同日
出席の菊地、富永両君と共々、見
事な花束を頂戴して御祝辞を賜り
謝の言葉もなく唯々御芳情に有難
く厚く御礼申上げます。

其の節も一寸申上げましたよう

い、数ヶ月会わぬ間にお互に年

をとる、皆様も何とかして御無理
をしないで健康を保たれる事を祈
ります。

皆様も段々と冬が近づきますの
で御用心、御長命を祈ります。

本日の盛会、仲秋の名月、受賞
者の万歳、皆様の御健康、荒尾さ
人の面白いお話、等を思い、御盛
会を祈り私の御挨拶に代えます。

志や希望とは凡そ違った方面に参

加納町の産業合理化審議会や輸出公

会の觀月会が神戸北野クラブで催
された際、先般の叙勲者の内同日
出席の菊地、富永両君と共々、見
事な花束を頂戴して御祝辞を賜り
謝の言葉もなく唯々御芳情に有難
く厚く御礼申上げます。

其の節も一寸申上げましたよう
い、数ヶ月会わぬ間にお互に年
をとる、皆様も何とかして御無理
をしないで健康を保たれる事を祈
ります。

皆様も段々と冬が近づきますの
で御用心、御長命を祈ります。

本日の盛会、仲秋の名月、受賞
者の万歳、皆様の御健康、荒尾さ
人の面白いお話、等を思い、御盛
会を祈り私の御挨拶に代えます。

△ 受 者 花 束 呈 贈 東

故人となられた多くの先輩同僚の方々を偲んで一分間の黙祷が捧げられました。引き続き成支部役員の互選が行われ左記の諸氏が選出されました。

支 部 長	幹 事	函 館 地 区	町 田 敏 光 氏
		小 樽 地 区	加 地 彦 太 郎 氏
			桜 庭 亥 一 郎 氏
札 幌 地 区	“ ”	本 間 “ ”	勇 児 氏
		深 谷 “ ”	良 一 氏
横 田	山 口 “ ”	義 雄 氏	
		周 作 氏	

食卓を囲み往時を想起して心温まる中に歎談は繰り展がり時の経つのをうち忘れました。その間に本部より特に御寄贈いただいた辰のれんを柳田義一氏から御披露あり、又同氏の俳句の短冊を一同記念として頂きました。

思いまするに当支部の会員は鈴木時代小樽支店と函館支店に在職された方が多いのですが、この他本店や帝国炭業に勤務された方も見えました。之とは別に鈴木商店小樽支店の後継であった大成商事に居られた方や現在太陽鉱工の子会社羽幌炭鉱鉄道の役員もこれに参加した訳です。鈴木時代の方々は何れも、既に六十才代の半ばを過ぎた方々ばかりで、中には八十才に近い方も居られましたが、皆思いの外元気で現在でも壯者をしきぐ活躍をして居られるようですね。古こよ五〇八年長、今六月

北海道支部発足

(横田記)

北海道は明治大正を通じ、樟脳と並び鈴木商店の重要な輸出商品だった薄荷の産地であります。薄荷の他の魚油（ニシン油）豆類其他いろいろの北海道の物産を鈴木は取扱って居りましたが特に青豌豆とボテト・スタークは第一次世界大戦で食料物資の世界的大不足の際に、欧洲へ之を大量輸出して聊かの緩和に寄与しました。

不幸、鈴木は昭和二年四月解散の止むなきに至りましたが、然しその手本の持つてました羽幌の石炭礦区は樺太のソンドラ採掘の権利と共に子会社太陽産業に受継がれ、青糖や日粉の販売網も鈴木商店小樽支店の後継者大成商事に引継がれ、鈴木なき後もその地盤は北海道では確保されたのであります。

勤務したこととを誇りとし、鈴木に
多大の恩顧を受けた自分としては
鈴木に縁りの深い方々と会いた
い、特に鈴木商店入社第一日目か
ら数ヶ月間も同じ寮で枕を並べて
暮させて下さった柳田さんにお会
いしたい一心で、十一月二日（土）
に札幌に向たつ私マサキでありまし
た。札幌には次男（雅樹36才小樽
商大卒、日本冷蔵札幌支社在勤）
のところに宿を取り早朝小樽に出
たわけでした。小樽郊外の觀光も
されることながら朝里温泉山友荘で
の発会式の席上、辰の社旗を仰ぎ
見た各会員達の想いは、一瞬表現

辰冬の昔
竹内義光
山中花流
松井キン
祖井キン
猿目梅子
冷泉清雲

かみしめながら大方の人々と共に
バスに乗り込んでしました。

途中小樽駅で下車し小樽に嫁い
でいる次女と孫の顔を一寸見て札
幌の次男の許へ帰りました。次男
のところでは二日間寝かして貰っ
て五日に帰函いたし以來静養いた
し、やっと昨日から外出もできる
ようになりました。札幌では羽幌
炭礮本社を御訪ねして御挨拶申し
上げたく考えていたのですが右の
ような始末で心なラズも失礼して
しまいました。

昭和二年鈴木解散後財界復帰を
断念し教育界に入り四十年近くに
なりましたが、この間においても

する術もなく、只々なつかくし、感無量であったことと想像いたしました。対初面の方であっても何か一言話しかけても、それからそれへと昔の鈴木時代の思い出につながって行くのですが、余りにも歳月が経ち余りにも思い出が多いので何から先に話してよいやら気持ちの整理がつかない、只各々が昔のなつかしい思い出に耽つているような面持ちのようになさえ思われました。私自身そうであつたように。それでいて当時財界の雄としての鈴木商店に血のつながりを持つ同志としての親近感がしみじ

ようになりました。札幌では少額
炭礦本社を御訪ねして御挨拶申し
上げたく考えていたのですが右の
ような始末で心なラズも失礼して
しまいました。

横田周作	松下 康郎
小川謙二郎 <small>(実三郎氏息)</small>	（松岡俊一氏女越）
川越孝教	武井 正美
原田直吉	
桜庭亥一郎	
小川実三郎	牧野 豊二
山口 義雄	
町田 敏光	村田 拓吉
柳田 義一	米田 竹雄
本間 勇兒	
井筒 栄助	（碓井キノ子）
碓井 洋 <small>(安重民息)</small>	（安重民未亡人）
柳田 五郎	（鶴田未亡人）
（鶴田未亡人）	冷泉 ハナ

された御厚情の賜ものによると深く
信します。

あの名簿に私の住所などを載せ
るのに居所不明で嶋内さんが大変困
ご苦労なさった様子でしたが私の
知っている人は小樽の本間さん位
で、他の方は殆ど未知の方でした
た。只びっくりしたのは函館の加
地さんでした。知らぬことは云
え、僕の函高校長時代から名前も
顔も知っていました。只月末から
ら気管支炎をやっていたので出席
できるかどうかと危ぶんでいまし
たが、柳田さんが来道されるとあ
りましたのでは是非とも出かけたい
と思い医者の薬を五日分程持参し
て出かけました。数えて見れば略
々五十年前大正七年（満十八才）

私鉢木時代多数の先輩、同僚から
ら多大の訓陶と交誼を頂きましたが、
が直属の上司として今日尚御健全な
であられる方は米部時代の永井幸
太郎様、船舶時代の勝屋利秋様で
す。勝屋さんは滝商校長時代に一
偶然の機会に一度拝顔、内田光次
さん、梶川増太郎君も同席し、東

にお応えできたのではないかと自分自身で勝手に考えていました。現在は常勤の仕事には健康が耐えられそうもないで、週一～二回の非常勤の講師として女子短大で「経済学」関係のおぼつかない講義をしてささやかな生活をすごしているべきだ。

された御厚情の賜ものによると深く
信します。

あの名簿に私の住所などを載せ
るのに居所不明で嶋内さんが大変困
ご苦労なさった様子でしたが私の
知っている人は小樽の本間さん位
で、他の方は殆ど未知の方でした
た。只びっくりしたのは函館の加
地さんでした。知らぬことは云
え、僕の函高校長時代から名前も
顔も知っていました。只月末から
ら気管支炎をやっていたので出席
できるかどうかと危ぶんでいまし
たが、柳田さんが来道されるとあ
りましたのでは是非とも出かけたい
と思い医者の薬を五日分程持参し
て出かけました。数えて見れば略
々五十年前大正七年（満十八才）

北海道支部会所感

桜庭亥一郎